

3-10. 東伊豆ECOツーリズム協議会（静岡県賀茂郡東伊豆町）

(1) 地域の概要

【人口】

13,191人(男性/6,246人 女性/6,945人) (平成27年2月28日現在)

【地勢】

東伊豆町は伊豆半島東海岸中央部に位置。東側は相模灘に面し伊豆大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島（八丈島は見えません）の伊豆七島を望み、北側は万二郎岳(1,299m) 万三郎岳（1,405m）遠笠山（1,197m）箒木山(1,024m) といった標高1,000m級の天城連山が連なっています。東側は全て海岸線となっていますが平地は少なく、相模灘に流れ込む河川流域と山間部盆地に僅かに広がるだけです。町内の多くは天城連山の丘陵エリア、山岳エリアとなり、伊豆半島最高峰の天城山万三郎岳（標高1,405m）まで海岸からの直線距離、最短で約6,000mで、場所によっては急峻な地形となっています。隣接する市町は伊東市、伊豆市（旧天城湯ヶ島町）、河津町です。

【面積】

77.83km² 東西15.04km 南北13.78km

【気候、自然】

<平均気温>

3月～5月14.2度・6月～8月24度・9月～11月19.4度・12月～2月7.1度

年平均気温・約16.2度（観測地は標高130m）

<平均降雨量>

3月～5月315.5mm・6月～8月131mm・9月～11月210.8mm・12月～2月133.3mm
年間総雨量2,372mm（平成24年観測値）

東伊豆町は東側が相模湾に面しているため北東の風が入り込みやすく、盛夏時でも極端な猛暑になることは殆どありません。別荘が建ち並ぶ山間部は避暑地として利用されています。また、冬期も極端に寒くなることはないのですが、北東風（ならいの風）の影響と急峻な地形のために寒気と共に上昇気流が発生、海岸付近は降雨でも僅か数十メートルの標高差で雪になることは珍しくありません。

【歴史】

東伊豆町の人々の起源は、稲取ゴルフ場遺跡から発掘された十数個の細石器から始まります。人々が移動生活をしていた約12,000～13,000年前の先土器時代の人々が狩猟などに使用したものと推測されています。また、人々が集落を形成し定住をはじめた縄文時代早期（約9,500～6,500年前）の遺跡が町内、奈

良本地区の峠遺跡と穴ノ沢遺跡、白田地区の宮後峠遺跡の発掘によって確認されました。

峠遺跡から発見された石器製作跡は、矢じりを製作した工場跡とされ、剥片が数ブロックにわかれて出土、流れ作業によって石鏃製作が行なわれていたことが予想されます。現在は別荘地の一部となり、縄文時代の貴重な矢じりの製作工場跡は埋め戻され、分譲地として別荘が建てられています。その他、竪穴状遺構や土坑が発見されており、その種類、量などから国内において貴重な遺跡といえます。同町、稲取地区の細野遺跡や崎町遺跡から弥生式土器が出土、東伊豆町でもこの時期から稲作が行なわれていたことがわかります。

奈良時代から平安時代にかけて、伊豆は流刑の地となり、多くの貴族、僧侶、武士が流されました。源頼朝は、蛭ヶ小島（現菰山町）に流されたおり、伊東・川津といった伊豆の豪族と親交を結び、稲取の八幡神社にも参拝したと伝えられています。頼朝が建久三年（1192）に鎌倉幕府を開くと、東伊豆と鎌倉の往来も盛んになり陸上交通が発展しました。同時に稲取港をはじめ伊豆の港も海上交通の発達とともに中継点として栄え、南北朝・室町時代には、紀州から来た鈴木一族によって管理されるようになりました。その後、鈴木一族に変わり、伊豆の港は豊臣・徳川の浦奉行役の管理下として幕府の直轄地となりました。

江戸時代になると海運の進歩により稲取港も大いに繁栄、徳川家康の江戸城大改修、天下普請の際には西国大名たちにより築城石を切り出し、船で運搬、東伊豆町でも大川、堀川（現北川）、稲取などから切り出された石が稲取港から江戸へ向けて出航しました。

その後、東伊豆町の支配は幕府から沼津藩主水野氏へと代わります。当時の人々の産業は漁業が主となり、延宝六年（1678）に白浜（現下田市）から天草を転植、天草漁が盛んに行われるようになったのです。

明治時代に入ると東伊豆町は菰山県から足柄県に、明治9年には静岡県に属するようになり、東伊豆町は近代化の道を歩み始めます。町の発展に稲取村の村長を務めた田村又吉翁、^{いがくし}醫學士の西山五郎先生が大いに貢献しました。現在、町の主要産物となっているみかん栽培を広めたり、天草の製品開発に尽力するなど、東伊豆町の発展に生涯をささげました。また、赤痢が多くの人命を奪う中、飲み水の影響であることに気付き、稲取では日本人により水道施設を国内はじめて敷設するに至りました。（国内初めての水道施設は横浜ですが、日本人による水道施設の敷設は稲取がはじめてとなります）

また、町の発展に尽くした人物として木村弥吉翁があげられます。木村翁は明治41年に旧城東村大川に移り「絹サヤエンドウ」の早生栽培を成功させました。絹サヤエンドウは「成金豆」と呼ばれ、大きな収益を上げました。その収益で熱川に旅館を建て全国有数の観光地に発展させたのです。その後、昭和に

なって北川温泉、稲取温泉が発見に至っています。

戦後、着実に発展した東伊豆町は、昭和 34 年に稲取町と城東村が合併して現在の東伊豆町となりました。昭和 36 年には伊豆急行が開通し首都圏からの交流人口が大幅に増加、観光の町として脚光を浴びるようになりましたが、全国的な交通網の発達とともに、地理的に交通事情が発達しにくい環境から現在では観光交流人口が減少しています。

【観光】

風光明媚に恵まれた町内は海岸エリア、山岳エリアともに景観に優れ、天城山系の噴火がもたらした多くのジオサイトが点在しています。

また、歴史に関する観光資源も多く、稲取地区の雛につるし飾りや北川地区の鹿島踊り最南端伝承地、幕末の志士たちが奔走した東浦路、江戸城築城石採石地など多くの観光ポイント、観光資源を有しています。

【地域資源の概要】

①古道（東浦路）

平安時代～大正時代にかけて小田原～下田間の伊豆半島東海岸を通った街道街道。現在でも一部国道に取り込まれているが生活道路として存在、街道沿いには道祖神や道しるべが点在しています。東伊豆町の古道沿いには縄文時代の遺跡、江戸城築城石採石跡、神社、お寺があり、歴史を肌で感じる街道となっています。

②江戸城築城石採石跡（石丁場）

関ヶ原の戦いで戦勝した徳川家康は慶長九年、江戸城大改修の天下普請を発布。西国大名に築城石の調達課役を命じました。伊豆東海岸は天領地であったこともあり、採石の地として選定され、東伊豆町内からは大量の石材が石積船によって海上輸送され江戸まで運ばれていったのです。その採石跡が 400 年以上の時を経た現在でも現存し、石工達が刻んだ刻印や矢穴を確認することが出来ます。

③ジオサイト

東伊豆町は天城山系の最高峰、万三郎岳を有し、伊豆東部火山群の一部を成形しています。伊豆半島創世記の痕跡と火山が創りあげた複雑な地形を観察することが出来、ジオサイトとして注目されつつあります。

④歴史文化

東伊豆町には知られざる歴史が存在しています。国内にて水道施設が誕生したのは横浜ですがイギリス人技師によって設計施工された施設です。東伊豆町稲取地区に施設された水道は疫病から村民を守るため、船大工たちによって造り上げられた日本人による国内初めての水道施設なのです。また、同町は江戸城無血開城の立役者、幕末の三舟と言われる勝海舟、高橋泥舟、山岡鉄舟との関わりがあり、それぞれの書、山岡鉄舟の御位牌が存在しています。

(2) アドバイザー派遣申請の背景

昨年度、東伊豆 ECO ツーリズム協議会に於きまして「エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業」を採択いただき行政指導では無く、民間主体の団体としてエコツーリズムへの取組をアドバイスしていただきました。その後「大人のふるさと学級（現名称：東伊豆ふるさと大学）」の開催を実施、地域住民への参加を募り、当エリアのグリーンツーリズム、ブルーツーリズムに対する啓蒙とガイド養成の基礎作りを実践してきました。並行して地元ケーブルテレビの取材協力の下、映像を等して地元住民への参加働きかけ、行政への参加働きかけを行い、全体構想の策定を見据えた組織作りを行って参りました。

「大人のふるさと学級」参加者からは今まで知り得なかった地域の歴史、文化、自然に触れ、観光資源とすべくエコツーリズムに対する意識を言葉にして表現していただくことが出来ました。

行政の対応は「全体構想」に対する認識は殆ど無く、官民協同によるエコツーリズムへの取組をしていこうとする意識を感じることは無く、書類が出来たら持ってきたという姿勢を貫かれています。

1) <課題>

- ・行政がエコツーリズム推進法に対する理解度が殆ど無い。
- ・エコツーリズムに対して行政主導で対応する意識が無い。
- ・財源の確保が困難なため協議会自体が疲弊してしまっている。
- ・エリア内に国として保全すべき貴重な埋蔵文化財が点在するも協議会として啓蒙活動以外の活動が出来ない。
- ・協議会を明確な事業体に移行していきたいが手法が判らない。
- ・「大人のふるさと学級」においてガイド志望の参加者に対して今後の対応を組み立てなければならない。

2) これまでの取組

①「大人のふるさと学級（現名称：東伊豆 ふるさと大学）」実施

2014年4月 「古道を歩く（片瀬～大川）」

2014年5月 「築城石を訪ねて」稲取地区石丁場を歩く

2014年6月 「シラヌタの池と大杉」

2014年7月 「稲取夏祭り 縁起を知る」

2014年9月 「稲取 重陽の節句 はんまあ様縁起」

2014年10月 「北川・鹿島神社／鹿島踊り縁起を知る」

「大川・三島神社／三番叟を見る」

2014年11月 「江戸時代の公害反対運動」

2014年12月 「エコエネルギー巡り 風力発電～小水力発電～温泉熱発電」

2015年2月 「古道を歩く（稲取～白田）」 荒天延期3月17日実施予定

②江戸城築城石石丁場調査

伊豆大川・寺山石丁場調査

伊豆稲取・本林石丁場調査…未確認大型築城石確認

伊豆稲取・海岸線丁場調査…築城石積載時の櫓礎石複数発見

(3) アドバイザー派遣の概要

日	時	平成 27 年 2 月 22 日（日）～24 日（火）
場	所	東伊豆町内古道（東浦路） 本林石丁場～志津摩海岸
アドバイザー		アイ・エス・ケー合同会社 代表 渡邊 法子 氏
参加者		東伊豆 ECO ツーリズム協議会 他合計 7 名
スケジュール・方法		【1 日目】 ・視察：旧稲取灯台、安房見の坂、灯台資料館、はさみ石、熊沢権現神社 ・東伊豆ふるさと大学事業化と法人化について 【2 日目】 ・視察：本林石帳場、志津摩海岸 ・本林石丁場の保全、観光資源化について ・東伊豆町、歴史資源の観光化について 【3 日目】 ・エコツーリズム推進法、全体構想について、副町長へ説明 ・勉強会：法人化準備について、法人化後の組織体制、 次年度以降の「東伊豆ふるさと大学」運営について

4) アドバイスの内容

1) 視察箇所

・古道「東浦路」

室町・平安時代から存在する古道。一部がそのままの状態で見られ、吉田松陰、坂本龍馬が下田に来航した黒船を目指し駆け抜けた街道。

・旧稲取灯台

明治初期の私設灯台。当時では珍しい三面ガラスの灯籠が設置されている。

・ハサミ石

東伊豆海岸随一の絶景と言える巨岩。1978 年 1 月 14 日に発生した伊豆大島近海地震により周辺で大規模な崖崩れが発生し陸路のアクセスが非常に困難になった秘境です。現在は遊歩道が整備されつつあります。

・本林石丁場群

東伊豆町と河津町との境付近にある江戸城築城石採石跡。東伊豆 ECO ツーリズム協議会メンバーにより未確認の刻印石、築城石、石丁場が発見されています。

2) アドバイス内容

①東伊豆 ECO ツーリズム協議会の法人化について

東伊豆 ECO ツーリズム協議会は協議会として存続させ、将来的には町長に会長職を兼任していただくのがベスト。東伊豆 ECO ツーリズム協議会に属する形で、たとえば「歴史・文化プロジェクト」を発足させ、個々のプロジェクトの目的を明確化させることで事業を確立させ、法人格を持たせるようにした方が良いのではないかと。

現状、いくつか町の予算が付く事業が発生しているモノの法人格がないため、予算の落としどころがない事案が発生している。早急に法人格（他法人格の傘下でも支所として）を持つべき。

民間主体という特異な形式の協議会であるが、やはり行政の参加は不可欠。全体構想策定に向けて粘り強く行政とも関わっていく必要がある。

②各視察箇所について

東浦路…昨年度の視察箇所と合わせて十分な観光資源となる素材。トイレ設置やインフォメーション、ガイド養成が不可欠であるが歴史上重要な文化財でもあるので、保全についても検討が必要。また、危険箇所が存在したり季節によっては立ち入れない箇所があるため観光化の際、観光客の安全の万全を期すことが必要。

旧稲取灯台…灯台周囲は整備されているが観光地としてのアクセス方法、場所が不明確。また、隣接する灯台資料館が民家と見違えるため、灯台まで観光客の足が向きにくいところは改善すべき。灯台資料館に展示されている刺繍は、この地方の物語を題材に作成され大変貴重な文化財であるが、展示方法に難があり、現状では痛む可能性がある。保全方法を検討すべき。

ハサミ石…大変珍しい巨岩であるが遊歩道が途切れた箇所からの歩行が困難。観光資源とするには観光客の安全確保が第一。

本林石丁場…比較的アクセスしやすい江戸城築城石採石跡であるが急斜面の上り下りがあるため安全確保が必要。町内に点在する私有地の石丁場とは異なり、一部町有地となっているので、保全を考慮しながら観光資源として期待が出来る。

(5) アドバイザー派遣実施の効果

1) 参加者や関係者に与えた効果

①エコツーリズム、又は、地域資源について理解が得られた

副町長への説明により今まで行政の協力を得ることが出来なかったが、今回の派遣事業にて行政の理解度が多少高まったと期待しています。

②今まで課題としていたことがより明確になった

昨年度より法人化について検討をしてきましたが、「大人のふるさと学級」の実施により事業化の兆しが出来、法人格を持つことの意義が理解出来ました。

③今までの課題に対して取組方が分かった

町内に点在する貴重な埋蔵文化財が私有地に存在するという課題は非常に解決しにくい問題であると感じています。この問題への取組について現状、地権者との話し合いによること以外、解決策がなく、保全すべき貴重な文化財が放置され続けていることに対して、どのようにして良いのか？取組方については不明確なままとなっています。また、全山史跡状態の伊豆大川谷戸山では違法建築物が確認され、どのように保全すべきなのか・・・苦慮するところです。

④今までとは別の課題が明らかになった

基本的に大きな課題は前年度と変わりありません。行政の理解と参加を望む次第です。

2) 今後期待される効果。

東伊豆ECO ツーリズム協議会をベースとするプロジェクトの立ち上げで、プロジェクトに法人格を持たせることで事業化を明確化させることが期待出来ます。

3) 今後の取組

協議会をベースとする別組織の立ち上げを検討、実践していきます。

(6) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

1) 参考となった事項

- ・法人化について
- ・地域資源の価値、及び、観光資源としての利用について

東浦路…稲取から白田に点在する名所・史跡

東伊豆の歴史を物語る名所・史跡が点在する東浦路。その魅力を紹介します。

●稲取の歴史
●白田の歴史
●東浦路の風景
●名所・史跡の紹介

東浦路は、稲取から白田にかけての海岸沿いの道。その沿道には、多くの名所・史跡が点在しています。その魅力を紹介します。

●稲取の歴史
●白田の歴史
●東浦路の風景
●名所・史跡の紹介



東伊豆ふるさと大学 いにしへの散歩道

東浦路を歩く (稲取～白田)

東伊豆町役場 → 田町駅前道祖神 → 船橋石薬田宅 → 奥通明神社 → 薬行寺院 → 稲高船 → 農業技術センター前 (旧三本松) → セイジョー前 → エンゼルロード前 → はさみ石 → 灯台前を通過 → 白田に向けて少し下る (洋み坂、安原見の塚) → 旧稲取灯台 (灯台資料館で昼食) → 灯台資料館 → セイジョー前 → 明治時代の緑林記念館 → ミカンワイン工場 → ランドマーク → 忘れあいの倉庫留台 → ジオサイト権現神社岩窟遺跡 → 準備中の市民農園 → 稲取古道 → 東伊豆町役場

東浦路に開校した年表

年	出来事
1945	東伊豆町立稲取小学校開校
1946	東伊豆町立白田小学校開校
1947	東伊豆町立稲取中学校開校
1948	東伊豆町立白田中学校開校
1949	東伊豆町立稲取高等学校開校
1950	東伊豆町立白田高等学校開校
1951	東伊豆町立稲取高等学校開校
1952	東伊豆町立白田高等学校開校
1953	東伊豆町立稲取高等学校開校
1954	東伊豆町立白田高等学校開校
1955	東伊豆町立稲取高等学校開校
1956	東伊豆町立白田高等学校開校
1957	東伊豆町立稲取高等学校開校
1958	東伊豆町立白田高等学校開校
1959	東伊豆町立稲取高等学校開校
1960	東伊豆町立白田高等学校開校
1961	東伊豆町立稲取高等学校開校
1962	東伊豆町立白田高等学校開校
1963	東伊豆町立稲取高等学校開校
1964	東伊豆町立白田高等学校開校
1965	東伊豆町立稲取高等学校開校
1966	東伊豆町立白田高等学校開校
1967	東伊豆町立稲取高等学校開校
1968	東伊豆町立白田高等学校開校
1969	東伊豆町立稲取高等学校開校
1970	東伊豆町立白田高等学校開校
1971	東伊豆町立稲取高等学校開校
1972	東伊豆町立白田高等学校開校
1973	東伊豆町立稲取高等学校開校
1974	東伊豆町立白田高等学校開校
1975	東伊豆町立稲取高等学校開校
1976	東伊豆町立白田高等学校開校
1977	東伊豆町立稲取高等学校開校
1978	東伊豆町立白田高等学校開校
1979	東伊豆町立稲取高等学校開校
1980	東伊豆町立白田高等学校開校
1981	東伊豆町立稲取高等学校開校
1982	東伊豆町立白田高等学校開校
1983	東伊豆町立稲取高等学校開校
1984	東伊豆町立白田高等学校開校
1985	東伊豆町立稲取高等学校開校
1986	東伊豆町立白田高等学校開校
1987	東伊豆町立稲取高等学校開校
1988	東伊豆町立白田高等学校開校
1989	東伊豆町立稲取高等学校開校
1990	東伊豆町立白田高等学校開校
1991	東伊豆町立稲取高等学校開校
1992	東伊豆町立白田高等学校開校
1993	東伊豆町立稲取高等学校開校
1994	東伊豆町立白田高等学校開校
1995	東伊豆町立稲取高等学校開校
1996	東伊豆町立白田高等学校開校
1997	東伊豆町立稲取高等学校開校
1998	東伊豆町立白田高等学校開校
1999	東伊豆町立稲取高等学校開校
2000	東伊豆町立白田高等学校開校
2001	東伊豆町立稲取高等学校開校
2002	東伊豆町立白田高等学校開校
2003	東伊豆町立稲取高等学校開校
2004	東伊豆町立白田高等学校開校
2005	東伊豆町立稲取高等学校開校
2006	東伊豆町立白田高等学校開校
2007	東伊豆町立稲取高等学校開校
2008	東伊豆町立白田高等学校開校
2009	東伊豆町立稲取高等学校開校
2010	東伊豆町立白田高等学校開校
2011	東伊豆町立稲取高等学校開校
2012	東伊豆町立白田高等学校開校
2013	東伊豆町立稲取高等学校開校
2014	東伊豆町立白田高等学校開校
2015	東伊豆町立稲取高等学校開校
2016	東伊豆町立白田高等学校開校
2017	東伊豆町立稲取高等学校開校
2018	東伊豆町立白田高等学校開校
2019	東伊豆町立稲取高等学校開校
2020	東伊豆町立白田高等学校開校
2021	東伊豆町立稲取高等学校開校
2022	東伊豆町立白田高等学校開校
2023	東伊豆町立稲取高等学校開校
2024	東伊豆町立白田高等学校開校

東伊豆 ふるさと大学資料「いにしへの散歩道」



三本松



稲取旧灯台



東浦路



はさみ石



安房見の坂



熊沢権現神社



石丁場内視察



矢割石



釘抜紋



築城石群



副町長への説明



今後の体制について

(7) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

アイ・エス・ケー合同会社 代表 渡邊 法子 氏

1) 地域における取組の現状と課題

①現状の取組

平成 25 年に発足した東伊豆町 ECO ツーリズム協議会は民間が主体で設立されました。観光が主要産業の東伊豆町ですがこれまで観光については海岸線の温泉場が中心でした。東伊豆町には海だけでなく山の自然資源や築城石丁場などの歴史文化資源も豊富であり、活かしきれていない魅力的な自然観光資源をエコツーリズムの推進によって活かそうとする取組が始まり、本事業の取組は、本年度で 2 年目となります。

昨年度の実施では課題としては以下の点などがあげられました。

1、山の景観や生息する動植物等の自然環境資源の活用方法と商品化 2、築城石をテーマに築城石丁場の保全と地域振興をおこなう推進方法 3、古道など、その他の地域資源の発掘および活用方法と商品化 4、エコツーリズム（着地型）商品の企画、販売の仕組み作り 5、効果的な情報発信の仕組み作り 6、人材育成の仕組み作り 7、事業の継続化 8、行政との連携、協働

本年度は①人材育成の仕組み作り、②行政との連携および協働、③築城石をテーマに築城石丁場の保全と地域振興をおこなう推進方法、以上 3 点の課題について重点的に活動が鋭意、推進されました。

②課題

ア. 人材育成の仕組み作り

東伊豆ふるさと大学を立ち上げ、広く町民に呼びかけ、山の景観や動植物等の自然環境資源、古道や築城石丁場等の歴史文化資源を学び、体感する機会をつくり、人材養成事業の基盤を構築しました。事業化、継続化が課題です。

イ. 行政との連携

全体構想の構築にむけて町行政に働きかけ、まずは東伊豆町 ECO ツーリズム協議会として全体構想の素案を作成する運びとなり、基盤が整備されました。今後は、素案作成において基礎知識等の共有や研鑽が課題です。

ウ. 築城石丁場の保全と地域振興への活用について

エコツーリズムで活用できるよう基盤整備を開始しました。保全と活用が課題です。

2) 魅力を感じた地域資源

①築城石採石跡（築城石丁場）

当該地域には、山の資源としての伊豆石が江戸築城の折に数十年にわたって切り出され運び出された築城石採石跡が確認されており素晴らしい歴史・文化遺産

として点在しています。400年の時を超えた今でも、石工達が刻んだ刻印や矢穴を確認することができる素晴らしい地域資源であると思います。ぜひ保全しながら後世に伝えてほしい大切な資源として魅力を感じました。

②古道（東浦路）

東浦路という小田原から下田間の伊豆半島東海岸を通る古道があり、街道沿いには道祖神や道しるべが点在しています。案内人のガイドを聞きながら巡れば、さらに歴史を肌で体感できる素晴らしい資源であると感じました。

4) アドバイス（講義等）の概要

昨年度示された課題に向け、鋭意推進活動を重ね、エコツーリズムを理解し賛同して共に活動する仲間づくりや商品化するために欠かせない人材養成事業を起こしていこうという気運が高まってきました。法人格を持って事業を継続化していきたい旨、協議会会員からの意見も一貫して聞かれました。そこで、まずは、全体構想を構築するため協議会として町行政と協働体制を構築する必要があることを伝えました。まずは全体構想の素案を作成して協働体制構築の糸口を作る方向性を示しました。さらに、法人設立には事業の明確化と担い手が必須であることを伝え、事例として

<http://inatorionsen.com/> 稲取温泉観光合同会社

<http://www.sc-tango.org/> NPO まちづくりサポートセンターsc-丹後 等を挙げ、エコツーリズム推進の事業化ならびに法人化に向けた体制づくりについて具体的に助言しました。

5) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

①全体構想への取組状況について

東伊豆町ECO ツーリズム協議会が素案を作成する方向性で推進中です。

②全体構想への意向について

東伊豆町行政と協働の体制づくりが急務な状況です。

③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

保全に係る地権者との調整・ルールづくりが必須です。

6) 地域に対する印象、今後地域に期待すること

人材養成事業としての「東伊豆ふるさと大学」の受講生が、回を重ねるごとに増えており、受講生は非常に楽しそうに参加しています。いかに継続事業としていかが課題だと思えます。ガイド養成やテキスト制作など具体的な事業を展開し、さらに活動への地元参加者を増やししながら、事業の継続化を促進してください。